

経済学部経済学科通信教育課程

I 2014年度大学評価委員会の評価結果への対応

第Ⅰ期中期目標は達成したと認識している。
第Ⅱ期中期目標として定めている、各種データの収集や学生アンケート等による定量的データに基づいた検証に向けて、カリキュラム変更前後2年間の履修・成績分布等のデータの蓄積や、2014年度から実施している学生アンケート等、定量的データの蓄積が順調進んでおり、検証手法を含めて検討していきたい。

II 現状分析

1 理念・目的
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。 ①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。 設定されている（「経済学部通信教育課程 理念・目的」参照）。
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 ①どのように理念・目的を周知・公表していますか。 全学生に配布している『学習のしおり』に掲載されていると共に、通信教育部ホームページにおいて教育理念および教育目標のページを設け、広く周知している。
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 ①理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。 現在のところ、定期的な検証を行っていないが、今後に向けた継続的な改革・改善に際し、理念・目的の適切性についても、通信教育学務委員を中心に検証していきたい。 一方、教育研究における理念・目的の適切性の検証において、他学等で成果が見られる検証手法がどのようなものなのか、大学評価室のアドバイス等を受けつつ検証手法についても検討したい。
2 教員・教員組織
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。 ①学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像、教員組織の編制方針を明らかにしていますか。具体的に説明してください。 通信教育課程は、通学課程の授業を行う学部が併せ行う形で運営している。従って、担当教員は通信教育課程と通学課程の両方を担当し、求める教員像は通学課程を前提としている。よって、教員の委嘱等については、通学課程同様、教授会の審議事項である。 ②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。 教授会は、通信教育課程の責任者として通信教育課程主任を任命し、学部長、教授会主任等の学部執行部と連携・調整を図っており、教授会においても通信教育課程の授業運営について審議・報告する役割を担っている。また、各科目には原則として教科担当者を専任教員が担い、その責任性を明確にしている。
2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 ①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。また、なぜそのように判断しましたか。 大学通信教育設置基準の附則3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程の専任教員は配置していないが、通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。
3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 ①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。 通学課程同様、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を設定している。
3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 ①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。 通学課程同様、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を設定している。
3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

<p><u>①どのように教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していきますか。</u></p> <p>通信教育部ホームページ等に掲載している。また、学科概要・人材養成その他教育研究上の目的や、教員メッセージも掲載しており、経済学部通信教育課程の魅力を広く周知している。</p>
<p>3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。</p> <p><u>①教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。</u></p> <p>これまで把握していなかった成績分布や学生アンケートによる定量的データを踏まえ、学務委員会の検討内容をもとに、今後はそれを活用した検証プロセスを検討したい。</p>
<p>4 教育課程・教育内容</p>
<p>4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p> <p><u>①学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性をどのように確保していますか。</u></p> <p>2013年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、通学課程とあわせると同時に、経済学部経済学科として修得が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとした。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。これにより、日本の通信教育課程において、幅広く経済学の科目を履修できる学科の1つとなっている。</p>
<p>4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p><u>①学生の能力育成の観点から教育内容が適切に提供されていますか。また、なぜそのように判断しましたか。</u></p> <p>通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの2つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間15週の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリングとその形態は多様である。また、夏期スクーリングでは、より社会人が受講しやすいよう18:30～の時間帯に授業を開講し、そのニーズに込えている。</p> <p>そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増やすべく、既に2015年度後期開講として1科目の撮影を終了、またその他2科目のコンテンツ化について準備を進めている。</p> <p>これら多様なスクーリングは、さまざまなニーズを持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットであると確信している。</p>
<p>5 教育方法</p>
<p>5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。</p> <p><u>①学生の履修指導をどのように行っていますか。</u></p> <p>卒業生に相談することが出来るWebによる学習相談制度を実施しており、より丁寧な学習指導を行っている。また、これから学習を進める新入生や学習の進め方に悩む在学生を対象にガイダンスや学習相談会を実施しており、地方在住者等に向けてそのガイダンス内容をWebでも公開している。また、2015年度は、より学習指導のクオリティ向上に向けて、ステップ型の学習ガイダンスの展開を検討している。加えて、通信学習およびスクーリングの全科目のシラバスを作成し、通学課程同様、シラバスのWeb化も達成し、今後の教育効果の向上が期待できる。</p> <p><u>②学生への学習指導をどのように行っていますか。</u></p> <p>通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。夏期・冬期スクーリングに加え、全国で実施している地方スクーリング時にも「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となるような場の提供も行っている。直近の「通教生のつどい」(冬期スクーリングにて開催)には、約100名の学生および教員が参加し、学習意欲向上の一助にもなっている。</p>
<p>5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p><u>①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。</u></p> <p>2015年度より、通学課程同様、通信学習およびスクーリングにおいて第三者確認制度を導入し、検証を開始している。</p> <p><u>②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。</u></p> <p>現在は検証を行っていないが、2015年度より通学課程同様、スクーリングにおいて学生による授業改善アンケートの実施の実決めたことから、その質問項目である「授業の運営が適切であった」といった回答等、定量的データの活用を検討していきたい。</p> <p>一方、授業がシラバスに沿って行われているかどうかの検証について、どのような検証手法が望ましいのか、受講者間のディベート等を反映した柔軟な授業展開や、受講者のレベル等に合わせた授業運営にプライオリティを置くのではなく、シラバス通りに授業を運営することにプライオリティを置くのか等の議論に至っておらず、本検証に向けて何がベストである</p>

<p>か確信を持っていない部分がある。</p> <p>他学等で成果が見られる検証手法がどのようなものなのか等、大学評価室のアドバイス等を受けつつ検証手法の検討も行ってみたい。</p>
<p>5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p><u>①成績評価と単位認定の適切性をどのように確認していますか。</u></p> <p>通信科目については、設題総覧に「設題解答にあたっての解説・注意等」、シラバスに「成績評価基準」の項目を設け、成績評価方法と単位認定の内容を示している。また、スクーリングについては、講義概要に加え「予習範囲」の項目を設け、単位認定への道筋を明記している。</p> <p>もちろん「成績評価基準」も明確に記載している。これらをもとに個々の授業科目で成績評価が行われている。</p> <p><u>②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。</u></p> <p>編入学生の単位認定は、2年次・3年次および通学課程からの4年次編入、学士入学者ごとに認定範囲を定めており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で認定を行っている。</p> <p>また、在学中に放送大学で修得した単位を最大10単位まで本学のスクーリング単位として認定する制度もある。</p>
<p>6 成果</p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p><u>①学生の学習成果をどのように測定していますか。</u></p> <p>通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）で最終的な到達点を測定している。</p> <p>スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。</p> <p>また、メディアスクーリングでは、中間レポートも課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。</p> <p><u>②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。</u></p> <p>2014年度末から、成績分布等の定量的データの把握をしている。</p> <p>進級などの状況は、年2回行っている進級卒業判定時において、教授会の審議事項である。</p>
<p>6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</p> <p><u>①卒業、卒業保留、退学状況を学部（学科）単位で把握していますか。</u></p> <p>通信教育課程は通学課程とは異なり、退学・除籍する学生が多く、卒業までに至る学生が少ないが、卒業、卒業保留、退学・除籍者については、通学課程同様、教授会で審議事項であり、正確に把握している。</p>
<p>7 学生の受け入れ</p>
<p>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p><u>①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。</u></p> <p>通学課程同様、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を制定している。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p><u>①定員の超過・未充足にどのように対応していますか。</u></p> <p>定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。従って、今後の文部科学省担当部署である学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集に力を入れ、時期を見て慎重に検討したい。</p>
<p>7.3 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。</p> <p><u>①学生募集および入学者選抜の結果についてどのように検証していますか。</u></p> <p>学生募集および入学者選抜結果については、毎年度「通信教育学務委員会」で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データがとともに適宜報告される。データを踏まえ、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」が現状と課題を教授会にフィードバックしている。</p>
<p>8 管理運営</p>
<p>8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。</p> <p><u>①通信教育課程主任をはじめとする所要の職を置き、また通信教育学務委員会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。</u></p> <p>通信教育学務委員会規程に定められた内容に則り、月1回を目安に定期的に通信教育学務委員会を開催し、入学選考から卒業に至るまでの各種学事事項が審議されている。</p>
<p>9 内部質保証</p>
<p>9.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。</p> <p><u>①質保証に関する各種委員会は適切に活動していますか。</u></p>

通信教育課程に共通する学事事項を審議するため「通信教育学務委員会」が置かれ、委員は通信教育課程を設置する学部からの選出者および通信教育課程の教養教育各科目群責任者から構成されている。

②質保証活動への教員の参加状況を説明してください。

経済学部教授会では、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」を指名し、これらの委員が通信教育課程の現状と課題を把握し、それらを教授会にフィードバックさせるシステムが整備されている。これにより教授会構成員全員が参加する状況を作ることが可能となっている。

また、通信教育学務委員のうち1名が、委員としてFDアドバイザリーボードへ出席しており、全学的な連携も図っている。

2015年度からは、通学課程同様、シラバスの第三者確認を実施し、質保証に向けて積極体に活動している。

学生支援【任意項目】

学生への生活支援は適切に行われているか。

- ・学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。

通信教育課程の事務局である通信教育部事務局では学生担当を置き、学生の生活相談も含め学生対応に力を入れている。

- ・学部（学科）として各種ハラスメント（アカデミックハラスメント、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等）の防止の取り組みを行なっていますか。

スクーリング開催時における学生周知文書等において、各種ハラスメントに対する防止について書面で案内を行っている。また、必要に応じて、学内に設置されているハラスメント相談室の活用もしている。

教育研究等環境【任意項目】

教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。

- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）、技術スタッフなどの教育研究支援体制は整備されていますか。

情報実習など、一部科目において、通学課程同様、ティーチング・アシスタント（T・A）を採用し、教育研究支援の一助となっている。

研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。

- ・研究倫理に関する学内規程に基づき、規程の周知、研修会の開催等、研究倫理を浸透させるための取り組みを行っていますか。

毎年、学則等の規程の見直し等について、通信教育学務委員会および教授会で審議している。

社会連携・社会貢献【任意項目】

教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。

- ・その他部局で取り組んでいる重点事項があれば記載してください。

卒業生との連携の強化を図っており、通信教育部ホームページにおいて卒業生による体験談の充実を進めている。これにより、本学の教育研究の魅力についてより広い周知が期待できる。

現状分析根拠資料一覧

資料番号	資料名
1	理念・目的
	理念・目的等（経済学部通信教育課程）
2	教員・教員組織
	教員一覧（2014年度）_通信教育部ホームページより抜粋
3	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
	資料番号1を参照
4	教育課程・教育内容
	経済学部教育課程_『学習のしおり』より抜粋
5	教育方法
	2015年度スクーリングシラバス一覧_法政大学Webシラバスより抜粋
6	成果
	経済学部通信教育課程における各種データについて_2014年度第9回学務委員会資料
7	学生の受け入れ
	資料番号1を参照
8	管理運営

	通信教育学務委員会規程
学生支援	
	2015 年度 GW スクーリング学生周知文書（受講要領）
社会連携・社会貢献	
	卒業生体験談_通信教育部ホームページより抜粋

III. 学部(学科)の重点目標

経済学部通信教育課程の主たる学生層である 30～40 歳代の社会人からも強く求められているメディア授業の一層の拡充を行い、高い教育水準を提供しつつ、学生からのニーズに答えたい。
また、ステップ型学習ガイダンスの導入等、学習フォロー体制の充実を目指す。

IV 2014 年度目標達成状況

No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
1	中期目標	単位修得方法の厳正化の深化	
	年度目標	2014 年度から新たに通信科目と同様に作成したスクーリング科目のシラバスの成績評価基準について、評価基準が適切に運用されているか検証する。	
	達成指標	通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、各科目担当者に検証を促す。	
	年度末報告	自己評価	A
		理由	シラバス作成にあたり、評価項目として重視する点を明記すること、評価要素に単位修得試験の得点だけでなくレポートの内容を含めるかどうか明記することを事務局から依頼している。また、スクーリングについては、通学課程同様のガイドラインで運用しており、これらを通して各担当者に評価基準が適切に運用されているか検証を促している。
	改善策	—	
No	評価基準	教育課程・教育内容	
2	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実	
	年度目標	2013 年 4 月から導入した新カリキュラムの効果を検証し、より一層の充実を目指す。	
	達成指標	各種データの収集や学生アンケート結果等にもとづき、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、教授会で検証し、より一層の効果を目標とする。	
	年度末報告	自己評価	A
		理由	通信教育学務委員会では、カリキュラムや各種制度の変更の検証について各種データの収集や学生アンケート等、できるところから進めることを確認している。これに伴い、満足度や学習行動等を把握するための学生アンケートを 2014 年度から実施し、今後も継続する予定である。
	改善策	—	
No	評価基準	教育方法	
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実	
	年度目標	前年度に引き続き、メディア授業の拡大（開講科目の増加）を目指す。 また、2013 年度から開催会場を変更した地方スクーリングをはじめ、各種スクーリングの開講科目について見直す。	
	達成指標	メディア授業の科目数を増やす。 また、メディア授業とその他スクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置する。	
	年度末報告	自己評価	A
		理由	メディア授業については、2014 年度は 10 科目を開講した（2013 年度は 5 科目）。メディア授業の受講者数も多いことから、学生のニーズに合致していることが確認できた。引き続き 2015 年度についてもメディア授業の拡充を目指す。 夏期スクーリングの夜間開講の開始時間について、2014 年度から 18 時 30 分（2013 年度は 17 時）に変更し、特に社会人学生が仕事終了後に来校しやすい時間帯に開講した。 各種スクーリングの開講科目については、2015 年度のスクーリング開講科目を決めるにあたり、各スクーリングに適切な科目を配置した。

	改善策	—	
No	評価基準	成果	
4	中期目標	継続的な学習推進	
	年度目標	これまでの各種学習相談体制を検証するとともに、Webを活用したサポート体制をより充実させ、継続的な学習を促す。	
	達成指標	在学生を対象としたアンケートを実施し、学生が求めるサポートのニーズを把握し、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、教授会で検証する。 学習ガイダンスのWeb視聴を充実させる。	
	年度末報告	自己評価	A
		理由	学生アンケートについては、通信教育部の全学部の在学生を対象に、2014年度から実施しており、今後も継続する予定である。 学習ガイダンスについては、通信教育部全体で延べ8日程を開催した（2013年度に比べ2日程増加）。そのうち、経済学部は3日程で教員が講演を行い、1日程については経済学科卒業生による個別相談を実施した。また、11月に実施したガイダンスの講演内容を撮影し、当日参加できなかった学生が視聴できるように、通信教育部生向けのWebサービス（Web学習サービス）で配信している。その内容は、経済学の学び方、テキストや参考文献の読み方、レポート作成方法、科目履修のポイントなど、効率的に経済学を学ぶためのコツを紹介しており、好評である。
改善策	—		

V 2015年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
1	中期目標	単位修得方法の厳正化の深化
	年度目標	2015年度から新たに導入されたシラバス第三者確認が適切に実施され、そのシラバスの成績評価基準について、適切に運用されているか検証する。
	達成指標	学生アンケートによる定量的データの活用を踏まえ、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、各科目担当者に検証を促す。
No	評価基準	教育課程・教育内容
2	中期目標	生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実
	年度目標	成績分布等のデータを活用し、カリキュラム科目のより一層の充実を目指す。
	達成指標	蓄積していく各種データの収集や学生アンケート結果等にもとづき、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、教授会等で検証し、より一層の効果を目指す。
No	評価基準	教育方法
3	中期目標	検証に基づく更なるスクーリングの充実
	年度目標	学生アンケート結果に明確に出ているメディア授業のニーズに応えるべく、メディア授業の拡大を目指す。
	達成指標	メディア授業の科目数を増やす。 また、メディア授業とその他スクーリングの開講科目のバランスを検証し、必要に応じて再配置する。
No	評価基準	成果
4	中期目標	継続的な学習推進
	年度目標	これまでの各種学習相談体制を見直すとともに、より学生視点のサポート体制を目指す。 また、レポート等作成に際し、剽窃等の防止策を検討の上、学生への周知徹底を目指す。
	達成指標	継続して在学生を対象としたアンケートを実施し、学生が求めるサポートのニーズを把握し、通信教育学務委員会の検討内容を踏まえ、教授会で検証する。 複雑な通信教育の仕組みを分かりやすく紹介する学習ガイダンス内容等を充実させる。 レポート等作成における指導を行い、剽窃に関する指導数の削減を目指す。

VI 2012年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

該当なし

VII 大学評価報告書

大学評価委員会の評価結果への対応に関する所見
経済学部経済学科通信教育課程では、第Ⅱ期中期目標において、学生対象アンケートや定量的データの収集・蓄積を進め、これらのデータを基にしながらカリキュラム改革の検証が継続中である。2014年度も検証方法そのものを含め検討が行われており、改革の効果や成果が大いに期待される。
現状分析に対する所見
1 理念・目的
1.1 理念・目的は、適切に設定されているか。 通信教育課程全体の理念および経済学部各学科通信教育課程の教育目標が設定されている。ただし、学部・学科の教育目標として、「個々の学力向上を図ることはもちろん、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材の育成を目標としている。」と当学科が養成する人材像を明示している。
1.2 理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。 経済学部経済学科通信教育課程の理念・目的は、大学および通信教育部ホームページ、学習のしおり等各種媒体において周知されており適切である。
1.3 理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 経済学部経済学科通信教育課程では、2011年度の認証評価申請年度に検証したが、その後は理念・目的の定期的な検証が行われていない。今後は通信教育学務委員を中心に検証を行っていきたいとのことであるが、早急に検証体制の整備を進めていただきたい。
2 教員・教員組織
2.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。 経済学部経済学科通信教育課程では、通学課程と同じ教員が授業を担当している。そのため、求める教員像および教員組織の編成方針等は通学課程と同様であるとしている。 組織の役割分担、責任の所在については、通信教育課程の責任者として通信教育課程主任が任命され、学部長、教授会主任等の学部執行部と連携・調整が図られている。また、教授会においては、通信教育課程主任が通信教育課程の授業運営について審議・報告する役割・責任を担っている。
2.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 経済学部経済学科通信教育課程では、大学通信教育設置基準の附則3に基づき専任教員を配置していないが、通学課程の教員が配置されており、適切な教員配置がなされているものと考えられる。
3 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
3.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 通信教育課程全体および経済学部各学科通信教育課程の学位授与方針が設定され、経済学部経済学科通信教育課程では、「人文・社会・自然などに関する幅広い教養」、「通学課程と同一水準の、時代の先端を行く専門分野の学識」、「自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力」を修得すべき学習成果として掲げるとともに、卒業要件を明示した学位授与方針を設定している。しかし、経済学科として修得すべき学習成果をより明確に盛り込むことも必要と思われる。
3.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 通信教育課程全体および経済学部各学科通信教育課程の教育課程の編成・実施方針が設定され、経済学部経済学科通信教育課程では「本学部の教育課程は、通学課程と同様であることを原則としている」と教育課程の編成実施・方針で定めているが、具体的な教育内容、教育方法に関する基本的な考え方を明示することも必要と思われる。
3.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。 経済学部経済学科通信教育課程の教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針は大学および通信教育部ホームページ等で広く周知されている。
3.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 2013年度のカリキュラム改訂後、第Ⅱ期中期目標に基づき学生アンケートや定量的データの収集・蓄積が鋭意行われている。これらのデータを基にした検証プロセスが検討されており、その結果が期待される。
4 教育課程・教育内容
4.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 2013年度のカリキュラム改革により、通学課程のカリキュラムとあわせるとともに経済学部経済学科の学生として修得

<p>が求められる基本科目を厳選したカリキュラムとしている。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置しており、その効果が期待される。</p>
<p>4.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。</p> <p>通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの2形態をもって実施されている。スクーリングは多様な形態で行われ、インターネットを利用したメディアスクーリングのほか、夏期スクーリング中の18:30分開始の授業などは社会人ニーズに配慮したものとなっており、広範な選択肢を学生に提供するという観点より高く評価できる。</p>
<p>5 教育方法</p>
<p>5.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。</p> <p>経済学部経済学科通信教育課程では、履修指導として、卒業生が応えるWebによる学習相談制度、新入生・在学学生を対象とする学習相談会、ガイダンスが実施されている。とくに地方在住者等に配慮しガイダンス内容がWebにて公開されていることは居住地域に影響されないので便利である。さらに、全科目シラバスWeb化も達成されており、現在検討されているステップ型学習ガイダンスの導入等を考慮すると、今後の教育効果の向上が一層期待される。</p> <p>学習指導については、「学習質疑」制度、スクーリング時の「通教生のつどい」における教員による直接の学習指導、参加者による情報交換等の機会が提供されている。このように多様な機会が設けられているが、学生によっては、十分な学習指導と感じない場合もあるかもしれないため、定期的・継続的な検証が必要と思われる。</p>
<p>5.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。</p> <p>経済学部経済学科通信教育課程におけるシラバスの適切性の検証については、2015年度より第三者確認制度（兼任講師のシラバスについて執行部が適切性をチェックする制度）が導入され検証が開始されており、有効に機能することを期待したい。</p> <p>授業がシラバスに沿って行われているかについては、現在は検証が行われていないため、検証方法等について検討が望まれる。また、2015年度から行われる授業改善アンケートの活用についても検討が望まれる。</p>
<p>5.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。</p> <p>経済学部経済学科通信教育課程では、通信科目について、設題総覧に「設題解答にあたっての解説・注意等」、シラバスに「成績評価基準」の項目が設けられ、成績評価方法と単位認定の内容を明示している。スクーリング科目についても、シラバスに単位認定への道筋が明記されている。これらに基づき各科目において成績評価が行われており、特段の問題は見当たらない。</p> <p>既修得単位の認定については、編入年次や学士入学ごとに認定範囲が定められている。また、在学中に放送大学で修得した単位を認定する制度も定められている。</p>
<p>6 成果</p>
<p>6.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。</p> <p>経済学部経済学科通信教育課程では、通信科目におけるレポート添削、単位修得試験、メディアスクーリングにおける、中間レポート、授業最終日の最終試験により学習成果が測定されている。通信教育課程では、他人が作成したレポート提出が行われても、そうした事実を捕捉することは困難であることが多い。したがって、各科目の単位修得試験や最終試験が厳正に実施され、学習成果を測定することが重要である。</p> <p>2014年度末より成績分布等の定量的データが通教事務に収集・蓄積されていて、執行部が問合せして取得するシステムになっている。まだその分析検証は行っていないが、今後その結果が待たれる。進級状況は、教授会の審議事項である。</p>
<p>6.2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。</p> <p>通信教育課程は退学・除籍学生が多いという特徴がある。卒業、卒業保留、退学・除籍者については、教授会の審議事項とされ、正確に把握されている。</p>
<p>7 学生の受け入れ</p>
<p>7.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。</p> <p>経済学部経済学科通信教育課程では、学生の受け入れ方針に「学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲をもった人材」を求める学生像として掲げている。しかしながら、経済学科として求める学生像および修得しておくべき知識等の内容や水準等を明確にすることが必要と思われる。</p>
<p>7.2 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。</p> <p>定員充足のあり方は、通信教育課程全体にかかわる重要課題の一つである。ただし、一学科、一部局では如何ともし難い側面もあり、学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめとする情報収集に力を入れていくとのことであり、今後の対応を見守りたい。</p>
<p>7.3 学生募集および入学選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に</p>

検証を行っているか。
通信教育課程全体として設置されている通信教育学務委員会において志願者数、合格者数、入学者数等が適宜報告され、それらのデータを踏まえ、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」から現状と課題が教授会にフィードバックされる。
8 管理運営
8.1 明文化された規程に基づいて管理運営を行っているか。
月1回を目安に定期的に通信教育学務委員会が開催され、規程に則り入学選考から卒業に至るまでの各種学事事項が審議されている。
9 内部質保証
9.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。
通信教育学務委員会が置かれ、委員は通信教育課程を設置する学部からの選出者および通信教育課程の教養教育各科目群責任者から構成されている。
質保証のため、経済学部教授会において「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」が指名され、通信教育課程の現状、課題を教授会にフィードバックしている。通教通信教育学務委員のうち1名がFDアドバイザリーボードへ出席することにより、全学的な連携も図られている。2015年度からは、シラバスの第三者確認を実施し、質保証に向けた積極的な活動が展開されていることは評価できる。
学生支援【任意項目】
学生への生活支援は適切に行われているか。
通信教育課程では、事務局である通信教育部事務局に学生担当を置き、学生の生活相談などに対応している。各ハラスメントに対する防止策としては、学生周知文書、ハラスメント相談室をもって対応している。また、教員に対しては、ハラスメントに関する注意喚起を教授会で行っており、リーフレットを配布して周知している。
教育研究等環境【任意項目】
教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
一部科目においてティーチング・アシスタントを採用し、教育研究支援の一助となっている。今後もティーチング・アシスタントの活用を図り、継続的に教育研究環境や条件を整備していくことが期待される。
研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか。
経済学部と同様に、学部内規に従って運用している。実験やフィールドワークが行う場合には各研究者からの要請によりその都度研究倫理審査委員会を立ち上げ、審査する体制を整備している。必要に応じ、外部の学識経験者を含める体制を整えていることは適切である。
社会連携・社会貢献【任意項目】
教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
日本各地で活躍する卒業生との連携強化を図ることにより、教育研究の魅力についてより広い周知が期待できる。現在の安価で安定した多様な情報通信技術を活用して、連携・貢献する方法を検討することも期待したい。
その他法令等の遵守状況
特になし
2014年度目標の達成状況に関する所見
2014年度中期目標として設定されている①単位修得方法の厳正化の深化、②生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実、③検証に基づく更なるスクーリングの充実、④継続的な学習推進の各年度目標がすべて達成（A評価）されていることは、評価できる。今後、学生アンケートや各種データの収集、分析が進められ、より客観的な評価へと結びついていくことが期待される。
2015年度中期・年度目標に関する所見
2014年度同様、①単位修得方法の厳正化の深化、②生涯学習に対応した更なるカリキュラムの充実、③検証に基づく更なるスクーリングの充実、④継続的な学習推進の4つの中期目標に基づき、各年度目標において、アンケート調査における定量的データの利用、メディア授業の増加等具体的に示されているので、それらの実現が期待される。
総評
通信教育課程では2013年度に大幅なカリキュラム改革が行われているが、今後のカリキュラム改革の効果の検証を期待したい。加えてメディア授業の一層の拡充やステップ型学習ガイダンスの導入等が検討されており、それらの成果も大いに期待される。通信教育部経済学部は、2学部（経済学部、経営学部）が担当学部となっているので、全学的な調整機能に加えて両学部間の連携、調整等についても密に行われることを期待したい。